

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

『ちいきの先生』をまとめる『がんばル〜ム』マネジャー



豊里小学校
『がんばル〜ム』マネジャー

かわたみつし
河田満次さん

地域と子どもをつなぐ役割

土曜日の小学校で一生懸命勉強する子どもたちと、それを見守る『ちいきの先生』。これは、土曜日の午前中に市内全19小学校で国語と算数の学習などをする『がんばル〜ム』という深谷市独自の取り組みで、平成14年から行われています。

河田さんは、6年前に豊里小学校の校長先生から誘われたことがきっかけで『がんばル〜ム』で子どもたちに教える『ちいきの先生』と、『ちいきの先生』のまとめ役である『がんばル〜ム』マネジャーを務めています。

もともと子どもの相手をするのが好きだった河田さん。『がんばル〜ム』では、国語と算数を教え、勉強の合間には子どもたちと一緒にレクリエーションをしています。



▲豊里小学校でのがんばル〜ムの様子。この日は18人が参加して、『ちいきの先生』に教わりながら勉強をしました。

また、『地域に愛着を持ってもらいたい』という気持ちから、豊里小学校独自のイベントとして、地域のかたが育てたそば粉と学校で育てたネギを使い、『そば打ち体験』をするなど、子どもたちと地域をつなぐ活動にも力を入れてきました。

「今でも、卒業した子どもたちから『先生!』と声をかけられるのが、とてもうれしい」と笑顔で語る河田さん。

『がんばル〜ム』マネジャーは3月で卒業しましたが、河田さんの思いを継ぐ人がこれからも『がんばル〜ム』を盛り上げてくれるでしょう。

『ちいきの先生』を募集しています。詳しくは生涯学習スポーツ振興課(572)

新庁舎 建設進行中!

深谷市役所は、2021年4月に新庁舎へと生まれ変わります。このコーナーでは、新庁舎に関する情報をお知らせしていきます。
問い合わせ/新庁舎建設推進室(☎501 - 2610)
今までの取り組みや最新情報は市ホームページをご覧ください。
深谷市庁舎建設

『実施設計』がまとまりました

『安全・安心な防災拠点、シンプルで機能的な庁舎』を目指し、昨年度策定した『新庁舎建設基本設計』を基に、各階の配置や設備などの具体的な設計となる『新庁舎建設実施設計』を策定しました。

新庁舎の特徴は?

現在の庁舎は、建設後50年以上が経過し、建物は老朽化に加え耐震性が著しく不足し、大規模な地震が発生した際は『防災中枢拠点』としての役割が果たせない状況です。

このため、新庁舎は低層(4階)で地震に強い箱型とし、安全性と災害対策に優れた『免震構造』を採用することで業務の継続性を確保します。

今後の予定は?

現在、施工業者選定手続き中で、今年度前半には工事に着手する予定です。また、およびその予定は下表のとおりです。

2018年度	2019年度	2020年度
新庁舎工事		庁舎解体
		付帯工事
		外構工事



▲新庁舎の完成イメージ図

ふっかちゃんの日常から
深谷が見えてくる

ふっか散歩

8 川本出土文化財管理センター

川本出土文化財管理センターにきたよあゝここには、市内で出土したさまざまな文化財が保管されて、展示もされているんだ。昔の深谷では、どんな暮らしをしていて、どんなものが見つかったのかなあ。早速見てみようっど!



◀今月の2~5ページでも特集している『幡羅遺跡』から見つかったものがたくさん展示してあるねえ。他にも人や馬の形をした埴輪とか、いろいろな出土品が展示してあるよ。



▲写真の右下に写っているのは、勾玉やガラス玉などの装飾品だよ。真ん中の奥にあるのは幡羅遺跡マスコットキャラクター『ハラ君』のもとになった出土品で『人面線刻土製品』っていうんだって!思ったよりちいさいなあ。

ふっかちゃんの
つぶやき
春本番!お花の季節がやってきたあゝ4月28日(土)・29日(日)は『ふっかや花フェスタ!』ぜひ、遊びに来てねえ~Y(00w00)Y



心の広場

川本北小学校6年
(現川本中学校1年)
大谷 祥子さん



ボランティア体験で学んだこと

私は、去年の夏休みに社会福祉施設にボランティア体験に行きました。

始めに、介護老人施設に行きました。今までは、介護老人施設は、お家で暮らすことが困難になった方が行く、悲しいところだと思っていました。

行って見て、まず驚いたことは、入れ歯のケースがずらあっと並んでいたことです。一つ一つ、清潔に管理されていました。食べ物は、その人に合わせて、ペースト状やさきみ食などにしてありました。おやつには、好きな飲み物を飲んでいました。コーラにとろみをつけて飲んでいる人もいました。自由にできることに驚きました。

近所のおばあちゃんたちは、デイサービスの日をととても楽しみにしていて、お化粧をしておしゃれをして出かけて行きます。「それほど楽しい場所なのだ…」と思いました。スタッフの方も、利用者さんも

楽しそうでした。ボランティア体験が終わっても、毎日行きたくくなりました。

それから、「ノーサイド」という施設に行きました。そこは、重度の知的・身体障がいのある人が作業をしている施設でした。私はボールペン作りを手伝いました。そこには、ボールペンを一生懸命作る人、一生懸命こわす人、それに、ただ見ている人もいました。でも、夕方には、ちゃんと目標の数が仕上がっていました。目標を達成するには、すべての人が必要だということがわかりました。

さらに驚いたことは、それぞれの人の状況や立場が大事にされているところです。お互いに支え合っているのだと強く感じました。

社会福祉とは、大人が取り組む、難しいもの、社会福祉施設は、暗くて悲しくて、かわいそうなどころだと思っていました。でも、社会福祉は、相手を思いやる心があれば誰にでもできる身近なことで、社会福祉施設は、明るくて優しさがいっぱいつまっている場所でした。

私も思いやりと優しさをもって、幸せな空間をたくさんつくっていきたくいです。また、ボランティア体験で学んだことをみんなに伝えていきたいです。いつでも、思いやりと優しさを忘れずに…。